

シンポジウム 1-1 (修 復)

マイクロスコープを用いたコンポジットレジン修復

菅原 佳広

日本歯科大学新潟病院総合診療科 (新潟県)

歯内療法や歯周治療のみならず一般歯科診療のあらゆる場面においてもマイクロスコープが活用されるようになってきた。特にコンポジットレジン修復はMI(Minimal Intervention)の概念と審美性を兼ね備えた優れた修復法である。この修復法は難易度の高い治療であるため術者の技量に依存する。そこで、拡大視野による手技の確実性が重要である。マイクロスコープの拡大視野によって、前歯部では歯の内部構造や表面性状を忠実に再現し、天然歯に迫る自然感を表現することができる。臼歯部では小窩裂溝を詳細に作り込むことができ自然感と咬合を回復することができる。さらに、辺縁の適合性や確実な隣接面コンタクトの回復を行うことにより長期予後も期待できる。

そこで今回は、マイクロスコープ下で行うマルチレイヤーテクニックや歯頸部充填、隣接面コンタクトの回復、歯肉縁下カリエスへの対応、大きな窩洞に対する対応などの日常臨床で役立つテクニックを紹介する。コンポジットレジン修復に対するマイクロスコープ有用性を伝えたい。

1997年 日本歯科大学新潟歯学部卒業

2001年 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科修了

2001年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院総合診療科助手

2003年 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第1講座助手

2004年 日本歯科大学新潟病院総合診療科講師

2006年 日本歯科大学新潟病院総合診療科医長

2014年 日本歯科大学新潟病院総合診療科准教授